

岡山県金融経済動向

1. 概況

県内景気は、建築投資の落ち込みなどからテンポが鈍化しているものの、基調として回復を続けている。

すなわち、最終需要面をみると、設備投資は堅調に推移している。輸出も海外経済の拡大を背景に増加している。また、個人消費は底堅く推移しているほか、住宅投資は足もと持ち直しつつある。一方、公共投資は低調に推移している。こうした中、改正建築基準法の施行や原油・原材料高の影響もあって、地場企業の景況感は慎重化しているほか、企業収益も足もとでは減益見込みにある。

県内主要製造業の生産活動は、内外需要が堅調に推移する中、緩やかな増加傾向にある。

雇用・所得環境をみると、人手不足感が強いもとで、雇用者所得は概ね横ばい圏内にある。

2. 実体経済

(1) 個人消費

個人消費をみると、底堅く推移している。

すなわち、20/1月の販売動向をみると、百貨店売上高は、食料品は低調であったものの、クリアランスセールなどにより衣料品に動意がみられたほか、雑貨も好調であったことから、前年比マイナス幅が縮小した。家電販売も、大型店との競争は激化しているが、一部先でセールが好調であったこともあって、前年を上回った。また、乗用車販売では、新型車投入や年明けの商談会などにより普通車が増加したほか、小型車、軽自動車も前年比マイナス幅を大きく縮小させたため、全体では14か月振りに前年を上回った。

一方、スーパー売上高は、食料品は底堅く推移したものの、冬物衣料や生活用品が苦戦したため、前年比マイナス幅を拡大させた。旅行取扱高も、海外旅行、国内旅行ともに団体が低調であったことから、再び前年を下回った。

このほか、主要観光地への入り込みは、降雪などの悪天候が響き、前年を下回っている。

(2) 設備投資

県内企業の設備投資は、堅調に推移している。

すなわち、19年度の設備投資計画(19/12月短観調査)をみると、非製造業では小売を中心に減少計画にある(前年比 4.2%)ものの、製造業では、化学(競争力強化、能力増強)、鉄鋼、石油・石炭製品(能力増強)などの素材業種を中心に大幅な増加計画となっている(同+25.5%)。この結果、全産業ベースでは、1割を超える増加計画となっている(同+14.7%)。

月次の指標をみると、建設投資の先行指標である着工建築物床面積(非居住用)は、改正建築基準法施行の影響から、前年を下回っている(前年比: 19/7~9月 44.3% 10~12月 12.9%)。

(3) 住宅投資

県内住宅投資を新設住宅着工戸数でみると、改正建築基準法施行の影響でマンションは落ち込んでいるものの、持家に加え、貸家でも低層物件を中心に解消されつつあることから、全体では足もと持ち直しつつある(前年比: 19/11月 1.6% 12月+10.1%)。

(4) 公共投資

公共投資は、低調に推移している。発注の動きを示す県内公共工事保証請負額をみると、20/1月は、「市町村」、「その他の公共的団体」が昨年的大型工事の反動などから前年を下回ったほか、その他の発注体でも前年割れとなったため、全体では3か月連続で前年を下回った(前年比: 19/12月 23.0% 20/1月 37.0%)。

(5) 輸 出

輸出は海外経済の拡大を背景に増加している。

すなわち、20/1月の県内輸出(通関実績)をみると、アジア向けが化学、鉄鋼を中心に引き続き堅調に推移しているほか、ロシア、中東欧向けも自動車(完成車)を中心に前年を上回った(前年比: 19/12月+36.6% 20/1月+24.5%)。

(6) 生産・出荷・在庫

19/12月の県内鉱工業生産指数(直近計数)の前年比は、輸送機械で上昇したものの、窯業・土石、電気機械、一般機械を中心に低下したことから、全体では2か月振りの低下となった(前年比:19/11月+1.2% 12月1.6%)。

季調済前月比では、輸送機械、繊維を中心に上昇したことから、全体では2か月連続の上昇となった(季調済前月比:19/11月+2.8% 12月+1.3%)。

この間、在庫指数は、輸送機械、電気機械、繊維を中心に、7か月連続で前年を下回った(前年比:19/11月 1.5% 12月 3.6%)。

県内主要製造業の最近の生産動向(10業種、付表参照)をみると、造船、工作機械では、豊富な受注残を背景に高操業を継続している。自動車でも、輸出向けを中心に高操業を続けている。また、鉄鋼、石油精製、石油化学は、堅調な内外需要を背景に、高めの生産を続けている。このほか、電気機械では、携帯電話向け部品で弱めの動きがみられるものの、全体として高めの生産を続けており、耐火物では、大手メーカーを中心に緩やかに持ち直している。この間、繊維では、安価輸入品との競合や海外への生産シフトなどから、全体として低水準にあるほか、農機具では、末端需要が引き続き低迷するなか、生産水準を一段と引き下げている。

こうした中、造船、工作機械、自動車のうち繁忙度が高い先では、残業などによる生産対応を続けている。

(7) 雇用・所得

労働需給面をみると、20/1月の有効求人倍率は、派遣求人などの受理厳正化の影響から低下した(19/12月1.29倍 20/1月1.21倍)ものの、なお高水準にある。一方、19/12月の所定外労働時間は、前年を下回って推移している(前年比:19/11月 12.8% 12月 13.3%)。雇用面をみると、19/12月の常用労働者数は、前年を下回った(同:19/11月 0.3% 12月 0.6%)。この間、20/1月の解雇者数は低めの水準となっている一方、雇用保険受給者数は前年を若干上回っている。このように、県内の雇用関連指標は、足もとでは弱めの動きもみられるが、総じてみれば改善傾向にある。

賃金をみると、19/12月の一人当たり現金給与総額は、前年を若干上回った(前年比:19/11月 4.1% 12月+0.8%)。

この結果、雇用者所得は、概ね横ばい圏内にある。

(8) 物 価

最近の岡山市消費者物価指数（平成 17 年基準、生鮮食品を除くベース）は、光熱・水道、交通・通信、生鮮食品を除く食料などが前年を上回っているため、全体では前年を上回る推移が続いている。

(9) 企業倒産

20/1 月の県内企業倒産（東京商工リサーチ調べ、負債総額 10 百万円以上）をみると、倒産件数（13 件＜前年 15 件＞）、負債総額（35 億円＜同 136 億円＞）ともに、前年を大幅に下回った。

3 . 金 融

(1) 実質預金等

20/1 月の県内実質預金をみると、個人預金、法人預金が前年比プラス幅を拡大したほか、公金預金も前年比マイナス幅が縮小したことから、実質預金全体の伸び率は上昇した（月中平残前年比：19/12 月 + 2.5% 20/1 月 + 2.8%）。

なお、実質預金を含めた地元 10 行庫の預り資産をみると、投資信託などの伸び率が足もと低下しているものの、全体の伸び率は実質預金の伸び率を上回っている。

(2) 貸 出

20/1 月の県内貸出をみると、個人向けがほぼ横這いとなる中、企業向けが設備資金を中心に幾分減少したものの、地公体向けが前年比プラスとなっていることから、貸出全体の伸び率は上昇した（月中平残前年比：19/12 月 + 0.7% 20/1 月 + 1.0%）。

(3) 貸出約定平均金利

20/1 月の新規貸出約定平均金利（総合ベース）は、3 か月振りに前月比上昇した。一方、ストック金利（同）はほぼ横這いとなった。

以 上

内容についてのご照会は下記までお願いします。

〒 700-8707 岡山市丸の内 1 - 6 - 1 日本銀行岡山支店 総務課

TEL 086 - 227 - 5111（代表）

FAX 086 - 227 - 6350

ホームページアドレス <http://www3.boj.or.jp/okayama/>

主要製造業の生産動向

業 種	足 も と の 動 向
自 動 車	<p>輸出向け完成車を中心に、全体として高操業が続いている。</p> <p>国内向け生産は、小型車は、新型車を中心とした年度末需要期に向けた積み増しによって増加しているものの、軽自動車は、販売台数の減少を受けて生産水準が低下している。一方、輸出向け生産は、完成車がロシア向けを中心に堅調なほか、欧州向けも他社向け供給効果などから堅調に推移している。このほか、KDも新型車投入などから増加している。</p> <p>この間、生産現場では、残業などによる生産対応を続けている。</p>
造 船	<p>豊富な受注残を背景に高操業が続いている。</p> <p>造船部門では、外航船を中心に豊富な受注残を抱えており、高操業を続けている。また、非造船部門でも、中・小型船舶向けディーゼルエンジンのほか、産業用機械の受注が堅調に推移しており、高操業を続けている。</p> <p>この間、生産現場では、残業などによる生産対応を続けている。</p>
石油精製	<p>原油処理量は高めの水準で推移している。</p> <p>製品別にみると、ナフサは石化メーカー向けが堅調に推移していることから、高めの生産水準となっている。ガソリンは需要が弱含んでいることもあって、生産水準はやや低めとなっている。軽油は内需が底堅く推移しており、輸出向け需要も好調であるため、高めの生産水準となっている。灯油は、需要期入りしているものの、燃料転換の進捗もあって需要が弱含んでいるため、生産水準は低めとなっている。一方、重油は、生産量が減少傾向にあるものの、暖房の燃料転換の進捗に伴う電力向け需要の高まりもあって、足もとの生産量はやや増加している。</p>
石油化学	<p>好調な内外需要を背景に、全体として高めの生産を続けている。</p> <p>製品別にみると、ポリエチレンは、需要が堅調に推移しているため、高めの生産を続けている。プロピレンは、自動車向けを中心に需要が好調であり、高水準の生産となっている。塩ビ樹脂は、輸出向けを中心に、高水準の生産となっている。スチレンモノマーは、輸出向けを中心に需要が堅調に推移しているため、高めの生産となっている。ポリスチレンは、汎用品の一部で需要が弱含んでいるため、生産量が減少傾向にある。</p>
鉄 鋼	<p>粗鋼生産量は、堅調な内外需要を背景に高水準を続けている。</p> <p>製品別の動向をみると、薄板類は、高付加価値品を中心に需要が好調なものの、一部先で定期修理を行ったため、生産水準はやや低下している。厚板類は、造船メーカー向けを中心に需要が堅調に推移しており、高水準の生産を続けている。形鋼類は、改正建築基準法施行の影響が幾分和らいでいるものの、一部先で定期修理を行ったため、生産水準が低下している。棒鋼類は、建設向けでは、改正建築基準法施行や、一部先での定期修理の影響もあって、生産水準が低下しているものの、自動車向けが好調に推移しているため、総じてみれば高めの生産を続けている。</p>
耐 火 物	<p>大手メーカーを中心に緩やかに持ち直している。</p> <p>大手メーカーでは、主力取引先である鉄鋼メーカー等からの受注が堅調に推移している。また、中小メーカーでも、安価輸入品との競合が続いているものの、需要が増加しているため、緩やかに持ち直している。</p>
電 気 機 械	<p>携帯電話向け部品で弱めの動きがみられるものの、全体として高めの生産を続けている。</p> <p>製品別にみると、電子部品は、液晶関連を中心に全体では高水準の生産を続けているものの、携帯電話向けで弱めの動きがみられる。スイッチも、携帯電話向けで弱めの動きがみられる。デジタルビデオカメラは、卒業・入学シーズンに向けた新製品投入により、生産水準を引き上げている。</p>
織 維	<p>全体としては低水準の生産が続いている。</p> <p>製品別にみると、綿織物、合繊織物は、安価輸入品との競合などから、生産量は減少している。また、ジーンズ、作業服は、海外生産シフトの影響などから、低水準の生産が続いている。学生服は、海外拠点への生産シフトにより低調な生産が続いている。</p>
工 作 機 械	<p>高操業が続いている。</p> <p>NC旋盤は、自動車関連、一般機械メーカー向けを中心に、輸出向けを主体に受注が堅調に推移しており、高操業を続けている。また、MC（マシニングセンター）も、自動車関連、一般機械メーカー向けを中心に、高操業を続けている。</p> <p>こうした状況下、繁忙度の高い生産現場では、残業、休日出勤による生産対応が続いている。</p>
農 機 具	<p>生産水準を一段と引き下げている。</p> <p>製品別にみると、コンバインは、末端需要が低迷しているため、一部の先では生産水準を引き下げて在庫調整を続けている。携帯用刈払機は、欧州向けを中心とした海外需要が一巡したため、生産量は減少している。</p>